

標 題	宍道湖西岸地区大区画ほ場整備に係る営農支援活動 その2 ～「出雲産小豆」の産地化を目指して220aへ面積拡大、目標2トン超え！～
-----	---------------------------------------------------------------------

(ダイジェスト)

大区画ほ場整備後における高収益作物として、小豆の産地化を目指す宍道湖西岸地区農村整備推進協議会（多久和修一会長、農家数626戸、整備面積456ha）では、平成28年度から小豆の省力機械化体系技術、湿害軽減対策及び品種比較等を実証し、今年度は220aに面積を拡大、収穫量も2トン超えを目指すこととなり、この度、今年度の設計会議が開催されました。

当地区で小豆を大規模に生産しブランド化するために、平成28～29年はコンバイン収穫による省力機械化体系技術、29年は一発耕起播種機による湿害軽減対策試験と複数品種による作業分散体系の確立のため品種比較試験を実施しましたが、雑草対策（カヤツリグサやタデ等）が29年度に新たな課題となりました。

そこで、(社)全国農業改良普及支援協会と協議した、「全国農業システム化研究会現地実証調査」を今年度も活用することとし、この度、設計会議が開催されました。

設計会議では、全国農業改良普及支援協会から平成30年度全国農業システム化研究会実証試験について、全国の設置状況や実施上の留意点について説明がありました。次に、農業・食品産業技術総合研究機構の研究者から雑草対策の基本的な考え方について講演がありました。なお、設計会議の概要は以下のとおりです。

- 1 実証担当者及び実証面積
 (農) ヨコハマ 小豆 100a
- 2 実証内容
 - ・湿害軽減対策 一発耕起播種機（トリプルエコロジー）による表面排水＋明きょ設置
 - ・雑草軽減対策 カルチ（キュウホー）による雑草除去、散布ノズルによる畦間除草剤散布
- 3 実証時期
 - ・播種日 7月19日（木）午前 *当日は「出雲産小豆播種実演会（仮称）」として開催
 - ・除草日 8月上～下旬頃を予定

今年度は、栽培面積を昨年の20aから220a（4集落営農）に増加し、収穫量は2.2トンを目指すこととなり、出雲普及部では、関係機関と連携しながら良質安定多収のための技術支援を積極的に行っていきたいと考えています。



昨年の雑草の様子(8月、カヤツリグサ)



昨年の雑草の様子(11月、タデ)



設計会議の開催風景(5/9)